

科目名	発達障害の特性と対応	教員名	小林 聖美 他	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
(科目番号)	(時間割参照)			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
				授業形態	講義	オフィスアワー	火6・A316研究室(小林)	
授業概要	発達段階に応じたリハビリテーションの目標を設定できるよう、小児の成長と発達の特徴を学習する。障害を抱えた児とその家族の問題を心理的側面から医療費の公費負担に至るまで、保健や福祉との連携を含めて学習する。理学療法に関連の深い小児特有の疾患（先天性疾患・感染症・神経疾患など）について、疫学や病理、治療の現状を学習する。							
目的・目標	目的:障がいを抱える子どもの生活を考えることが出来る理学療法士となるため、小児の成長過程、小児期特有の疾患概要やその治療、対応の現状を理解する。 目標:小児期特有の疾患とその治療や対応の概要について説明が出来る。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	発達障害とは	オリエンテーション:成績評価の方法・基準、参考書、この授業の組み立てについて説明する。 到達目標:小児の発達と小児理学療法との関連を理解する。 学習内容:広い意味での発達障害について学習する。(小林)					
	2	小児の身体的発達	到達目標:成長・発達について理解する。 学習内容:運動発達の意義を学習する。(小林)					
	3	小児によく見られる症候(1)	到達目標:小児の脱水症の兆候及び予防について理解する。 学習内容:小児の水分出納の特徴を知り、子どもの水分補給、脱水症の兆候、脱水症の原因となる主要疾患について学習する。(土浦協同病院 渡辺章充先生)					
	4	小児によく見られる症候(2)	到達目標:感染拡大の防止及びリハビリテーションの休止期間について理解する。 学習内容:発疹の原因となる主要疾患の病態について学習する。 (土浦協同病院 高橋孝治先生)					
	5	小児によく見られる症候(3)	到達目標:感染拡大の防止及びリハビリテーションの休止期間について理解する。 学習内容:かぜ症候群、百日咳、インフルエンザなどの病態を学習する。 (土浦協同病院 高橋孝治先生)					
	6	小児によく見られる症候(4)	到達目標:小児の発熱、けいれんについての適切な処置について理解する。 学習内容:小児の発熱の定義、発熱の原因となる主要疾患、けいれんの原因となる主要疾患の病態について学習する。(茨城県立医療大学付属病院 大黒春夏先生)					
	7	小児の慢性疾患(1)	到達目標:循環不良のサイン及び小児の呼吸系の特徴を知り、呼吸器リハビリの原則を理解する。 学習内容:胎児循環と成人循環の違いを学習する。循環不良のサインを学習する。 (土浦協同病院 渡辺章充先生)					
	8	小児の慢性疾患(2)	到達目標:1型・2型糖尿病の違い及び小児糖尿病のリハビリテーションにおける注意点を理解する。 学習内容:小児の栄養の特徴を知り、経腸栄養の考え方と種類を学習する。 (土浦協同病院 渡辺章充先生)					
	9	小児の慢性疾患(3)	到達目標:これら疾患のベッド上・室内リハビリを理解する。 学習内容:小児と成人の悪性新生物の違い、治療の目標を学ぶ。また、小児の腎臓疾患治療の原則を学習する。(土浦協同病院 渡辺章充先生)					
	10	小児の救命救急対応	到達目標:リハビリテーション時の急変時の対応について他職種との連携を含め理解する。 学習内容:小児の外傷、けいれん等の救命救急時対応について学習する。 (茨城県立医療大学付属病院 大黒春夏先生)					
	11	小児の情動と社会性の発達と親子関係	到達目標:小児の情動と社会性の発達と親子関係について理解する。 学習内容:出生から幼児期の情動と社会性の発達と、小児の主要死因である不慮の事故とその予防についても学習する。(茨城県立医療大学付属病院 中山純子先生)					
	12	子どもが障害を抱えることの意味	到達目標:大人と子どものリハビリテーションの違いを理解する。 学習内容:乳児死亡率の推移や児童虐待の現状、医療の発展に伴い増加する障害を抱えた子どもの生活について学習する。(茨城県立医療大学付属病院 中山純子先生)					
	13	難病・障害とライフスタイル(1)	到達目標:就学時までのリハビリ目標の設定について理解する。 学習内容:二分脊椎の発生病態及び合併頻度の高い水頭症の症状と治療を学習する。 (小林)					
	14	難病・障害とライフスタイル(2)	到達目標:ライフステージごとのリハビリテーションの基本的な考え方について理解する。 学習内容:てんかんと筋ジストロフィー症を取り上げ、その病態とライフステージによる症状の変化、二次性障害の予防について学習する。(小林)					
15	難病・障害とライフスタイル(3)	到達目標:免疫低下中の小児に対するリハビリテーションの原則を理解する。 学習内容:血液・免疫の異常による代表的な疾患について学習する。 (小林)						
成績評価の方法・基準	期末試験100%（対面・オンライン共通）							
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版			奈良 勲 監修		医学書院		
参考図書								
教員からのメッセージ	小児リハビリテーションは病院のみでなく、在宅で行われることも増えてきています。様々な場面で理学療法を提供するためには、疾患の基礎知識が重要です。小児リハビリテーションに少しでも興味を持てるよう視聴覚教材などを使用します。疑問に思ったことは積極的に質問してください。何回かに分けて練習問題を掲示します。復習として取り組んでください。授業の順番と開講日は外部講師の予定に合わせて不規則になることがあります。病院・在宅で小児理学療法に関わった理学療法士と小児科医がこの授業を担当します。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。							